

身体は育った。注意力は、まだ。

自転車の便利さの裏側にある危険を考えてみる

自転車は、子どもでも手にすることができる、身近で便利な道具だ。中高生にもなれば、ほとんどの人が自分の自転車を持ち、通学に遊びにと、便利に使っている。しかし、その便利さの裏には、危険も潜んでいる。去年の夏、当時、中学3年生だった知人が、近所の交差点（横断歩道上）で高齢女性の運転する軽自動車に巻き込まれ、怪我を負った。いつも使っている通学路で、一瞬のうちに起きた出来事だった。自分も中学生になって初めての夏、このことを思い出し、自転車が関係した交通事故に関する状況を、データを通して明らかにしたいと考えた。

1 自転車はほぼ全員が持っている乗り物

身近すぎて疑ったことがなかった。



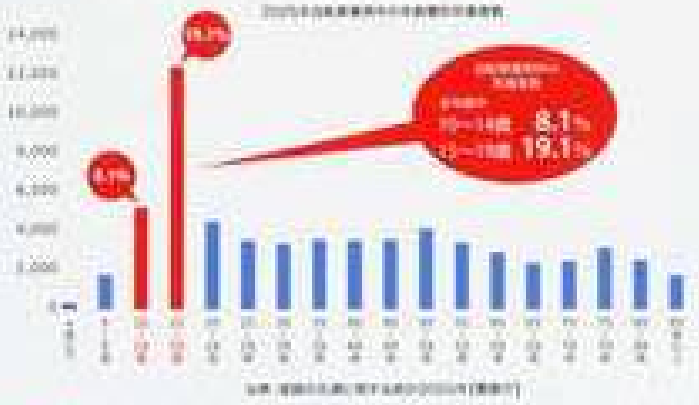
2 自転車事故だけが減っていない

交通事故は減っているが、自転車だけを見ると、話は違っていた。



3 中学生・高校生だけが突出して危ない

身体の成長スピードに注意力が追いついていない。



4 安全への意識が薄れる瞬間と死に至る負傷部位

中学生から高校生へ、この数年間で、ヘルメット着用率が落ち込んでいる。



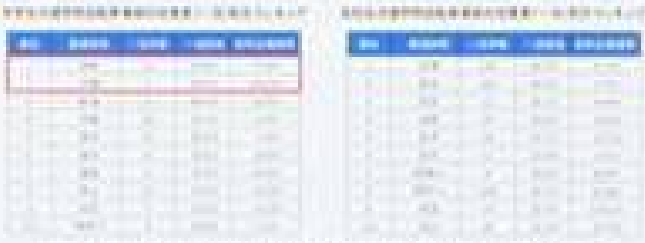
5 自転車事故ランキング、上位に大都市は入らない

移動手段の選択肢が少ないことが、リスクを増やしているのかもしれない。



6 一瞬の事故が一生の後悔になることもある

事故は一瞬で終わる。けれど、その後に続くものは、一瞬では終わらない。



7 まとめ

今回の調査を通して分かったのは、交通事故全体は減っているのに、自転車の事故は減っていないということだった。しかも、中学生・高校生は、他のどの年代よりも事故の割合が高い。身体が大きくなり、行動範囲が広がり、出せるスピードも上がる一方で、注意力や危険を読む力が追いついていないのではないかと考えた。今回の調査を、まず、自分自身が注意力を育てるきっかけにしたいと思った。

